

金色のちひさき鳥のかたちして
いちよう
银杏ちるなり夕日の岡に

与謝野晶子 (1878-1942)

歌人の穂村弘さんは、この短歌を
「银杏」の葉っぱが「夕日」の中に散っている。
キラキラキラキラ金色に光って鳥みたいだ。
あれに乗ってみたいなあ～
と解説なさっています。
なんて美しい短歌なんだろうと思いました。